

壁に掛けたカレンダーも最後の1枚となり、今年もいよいよ残りわずかだと思いますと、何か心急ぐ気分です。

先生方をはじめ、皆様方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。本年も、当院の連携業務にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

『今年を振り返って』

医務局長兼外科部長
地域医療連携室室長 佐藤 篤司
(専門：消化器外科、腹部救急外科)

酷暑がいつまでも続き、10月になってもまだまだ暑かったのが11月に入るや急に寒くなり、秋を一気に飛び越して今や暖房が必要になってきました。

今年も大島・フィリピン大災害など季節外れの異常気象による暗い話題が多い中、アベノミクスや2020年東京オリンピック開催決定など明るい話題もありました。その反面、東北大震災や福島原発事故の後始末は遅々として進まないにも関わらず、これらの話題は徐々に少なくなってきたり、意図的に葬られて行きつつあるようです。東北では帰宅できない方、衣食住がまだまだ落ち着かない方が大勢みえるようですし、原発事故に至っては、前代未聞の3原発メルトダウンを来たし放射能汚染は収束していないにもかかわらず、もう他原発再開が話題になる始末です。臭いものにふたをせず問題点を地道に解決していくことが、これからの日本にとって大切だと思います。

振り返って、緑市民病院では、指定管理開始後、様々な試みが行われてきており、少しずつ成果を上げてきています。

まず第1に、まだ少ないながら月に100台を越える救急車を受け入れるようになり、365日24時間切れ目のない救急体制ができました。次は電子カルテ導入、DPC準備病院認定、病院機能評価受審、という3本の矢の推進です。これは、旧来の緑市民病院の旧弊を払拭する、という院長の強い意志の表れと理解していますが、今回の緑通信をお届けする頃は、電子カルテ稼働から間もないため(12/1より本稼働)、てんでこ舞いであろうと思われます。皆様にも検査・診療予約や紹介状の返書などご迷惑をお掛けする場合がありますかもしれませんが、ご容赦のほど、お願い致します。

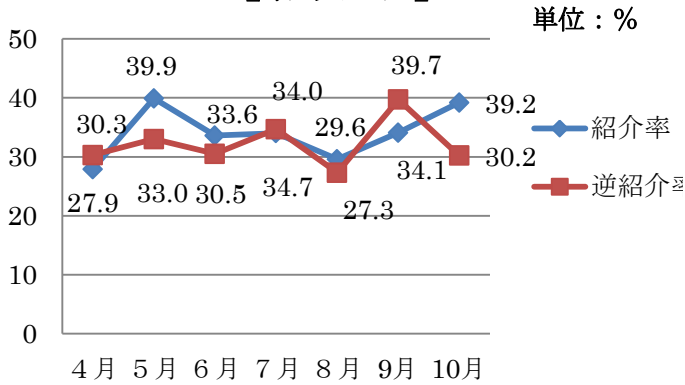
また、12/2よりSPD(Supply, Processing & Distribution、医療材料の発注・在庫管理を一元化し無駄を省く合理化手法)も稼働します。外見が変わらないため、なかなか気づいていただけないかもしれませんが、内面を変えて多くの患者さんに来ていただけるよう努力しているところです。

私的に今年もっとも勇気づけられた話題は、何と言っても「楽天の日本一」でした。寄せ集め、お荷物と言われた球団が創設わずか9年で日本一に輝いた、その快挙に勇気づけられた人は枚挙に暇がなかったことでしょう。この病院も地域の方々に「良くなったね」と褒めて頂けるよう、地に足をつけて頑張りたいと思っています。来年もご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

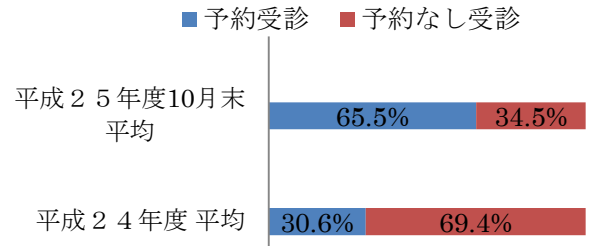




【紹介率】

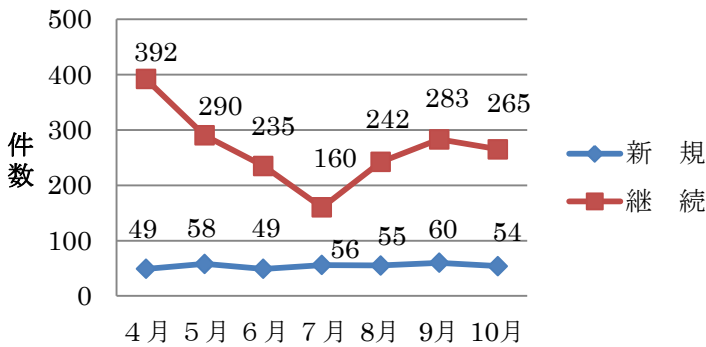


【紹介患者予約率】

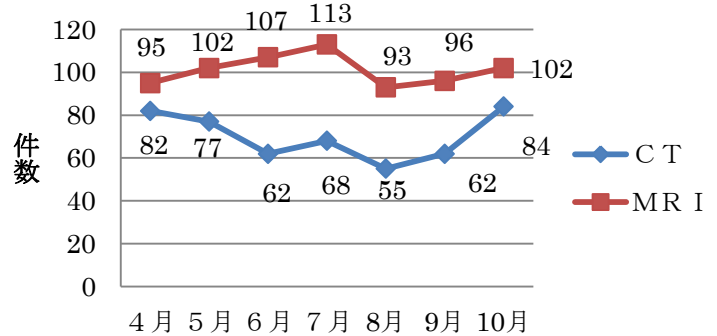


※地域医療支援病院の紹介率で計算

【医療相談件数】



【医療機器利用件数】



年末年始の休診日のお知らせ



年末年始の診療体制につきましては、お手数ですが別紙「年末年始診療体制一覧表」をご覧くださいませよう、よろしくお申し上げます。
 なお、待合室に掲示するなど、患者様にもお知らせいただければ幸いです。
 ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

予約受診のお願い



患者様をご紹介いただく際には、受診予約にご協力をお願い申し上げます。
 なお、当日の予約は原則行っておりません。(ただし、緊急時に関しては直接地域医療連携室へお問い合わせください。)
 また、予約申し込みが多い日は、ご希望に添えないことがございます。あらかじめご了承くださいませよう、よろしくお申し上げます。今後も、患者さんの待ち時間短縮とスムーズな診療に引き続きご協力をお願い申し上げます。